

# ボールの特性レポート

## BALL REPORT



ボール名 <b>ナノデス アクスウイング 4</b>	投球者 <b>徳江 和則</b>	センター <b>平和島スターボウル</b>
RG <b>2.490</b>	△RG <b>0.052</b>	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール

**テストボール：アクスウイング 4**

フレアーの幅  インチ

表面加工  
 箱出し状態  
 加工  
 ペーパー  
 ポリッシュ  
 研磨剤

PAPからピンとの距離  番

5 インチ

**比較対照ボール：アクスウイング 4**

フレアーの幅  インチ

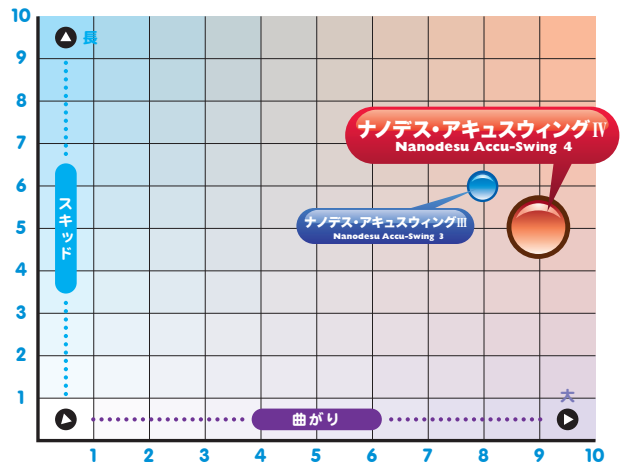
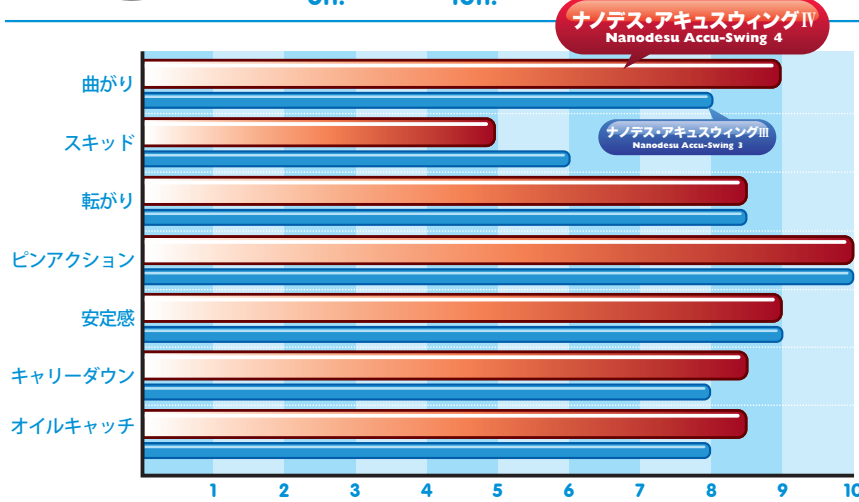
表面加工  
 箱出し状態  
 加工  
 ペーパー  
 ポリッシュ  
 研磨剤

PAPからピンとの距離  番

4 インチ



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- パフ



### ボールの評価

転がり続ける持続性コア”GMI”と新しいNANOXYカバーとの相性は、常に接地面とのコンタクトを取り続け、曲り始めから終わりまで安定した軌跡を得ることができます。前回のACCU-Swing3でも見られた安定感のあるパフォーマンスはABS専属川添翔太プロをはじめ、多くの方から高い評価を頂き、我々ABS開発チームは国産ならではの匠な技術を前面に出し、これからも妥協とは無縁のナノデスシリーズの開発に取り組んで参ります。

このACCU-Swing4はACCU-Swing3をベースにイメージを保ちながら、オイル量に対しての強化を図ることがコンセプトの中心です。更なる品質及びパフォーマンス向上の為、新たなカバーストックと衝撃吸収システムの開発を進めてきましたが、通常のシェル thicknessながらMagnetiteコアと極薄シェル同等まで反発係数を下げることが成功しました。

投げたイメージでは手前のオイルの適応量が広がったのはもちろんのこと、一番にはミッドエリアでの動きだしの安定感が格段にパワーアップしています。コアの転がり感を活かしながら、バックエンドで失速することなくピンヒットまで持続させられるだけのパワーを残せるリアクションイメージは我々の”拘りの領域”でもあり、キャリーダウンの影響度も少なくしながら”曲がる”という印象を持って頂けること。すなわち「曲がる!」「倒れる!」を感じていただけるでしょう。

ナノデスシリーズは常にピンアクションに拘りを持っていますが、特に今回は「薄めのみキシングアクション」が多く見られました。ポケットまで寄り付かないギリギリのヒットでもかき回すアクションを得ることができますので、リラックスしてラインにボールを放つことができるでしょう。今月のキャッチ系ボールはこのACCU-Swing4で決まります。

### 特記事項

**今年のラウンドワンカップ優勝ボールの後継機。さらに進化を遂げたこのボールを逃してはなりません。**